

次世代育成支援に関するニーズ調査

報 告 書 (概 要 版)

平成 2 1 年 8 月

宮 津 市

調査の概要

【1】調査の目的

「宮津市次世代育成支援地域行動計画【後期計画】」策定の基礎資料とするため。

【2】対象者

児童	対象児童数(人)	配布数(件)	回収数(件)	回収率(%)
就学前児童	952	595	301	50.6
小学校児童	1,060	575	297	51.7
計	2,012	1,170	598	51.1

【3】調査方法

就学前児童のいる全世帯及び小学校児童のいる全世帯を対象(しっ皆調査。)

ただし、両方の児童がいる世帯は、どちらか一方で調査を実施した。

郵送による配布、回収。

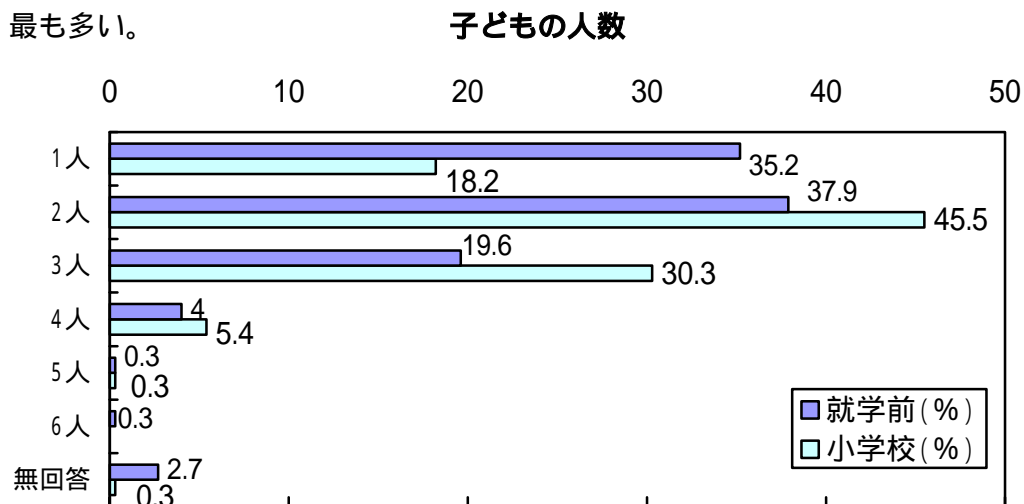
【4】実施期間

平成20年12月15日から平成21年1月15日

調査結果の概要

【1】子どもと家族の状況

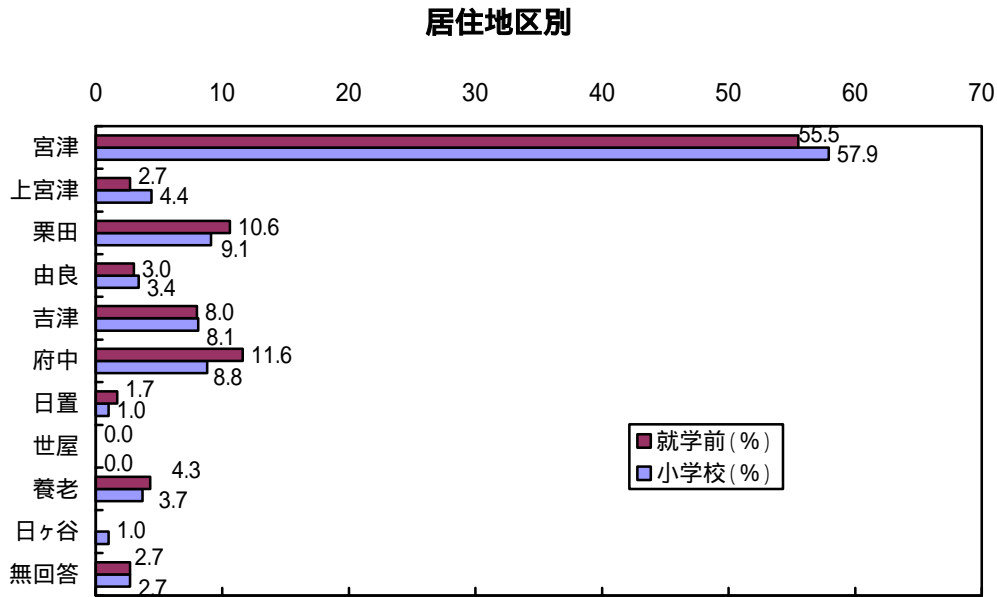
就学前・小学校児童とも4人以上の子どもを持つ世帯は少なく、2人きょうだいのが最も多い。



子どもの身の回りの世話を主にしている人等

子どもの身の回りの世話を主にしている人は、就学前・小学校児童とも、約90%が「主に母親」となっている。また、日頃から子どもを預かってもらえる人は、就学前・小学校児童とも「祖父母等の親族」が主となっている。預かってもらえる人の6割以上が、就学前・小学校児童とも「特に問題はない」となっている。

居住地区別ニーズ調査回収状況



【2】保護者の就労状況等について

就労状況

父親の就労状況は、「フルタイム就労」が就学前児童で 97.2%、小学校児童で 98.9% となっている。(パートタイム・アルバイトは、どちらとも約 1% 程度)

母親の就労状況は、「フルタイム就労」が就学前児童で 27.7%、小学校児童で 38.3%、「パートタイム・アルバイト」が就学前児童で 17.0%、小学校児童で 35.6% となっている。

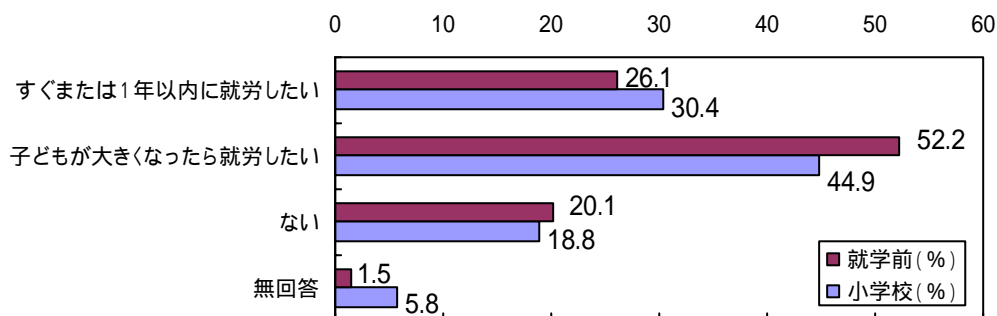
母親の就労希望と働けない理由

現在、就労していない母親の就労希望は、就学前児童で 78.3%、小学校児童で 75.3% となっている。そのうち「すぐもしくは 1 年以内に働きたい」とする母親は、就学前児童で 26.1%、小学校児童で 30.4% を占めている。

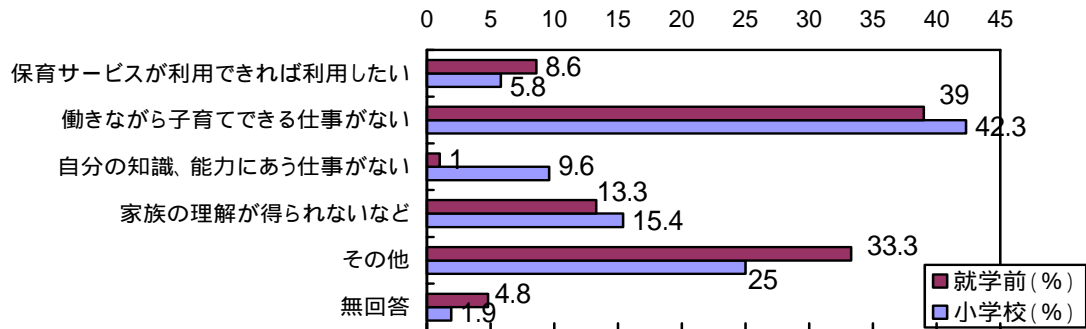
また、働けない理由では、就学前児童、小学校児童とも「働きながら子育てできる仕事がない」を第一の理由として掲げている。

一方、出産を機に離職した母親(就学前児童 105 人)のうち、『保育サービスや就労環境等が整っていたら就労を継続していた母親』は、31.4% となっている。

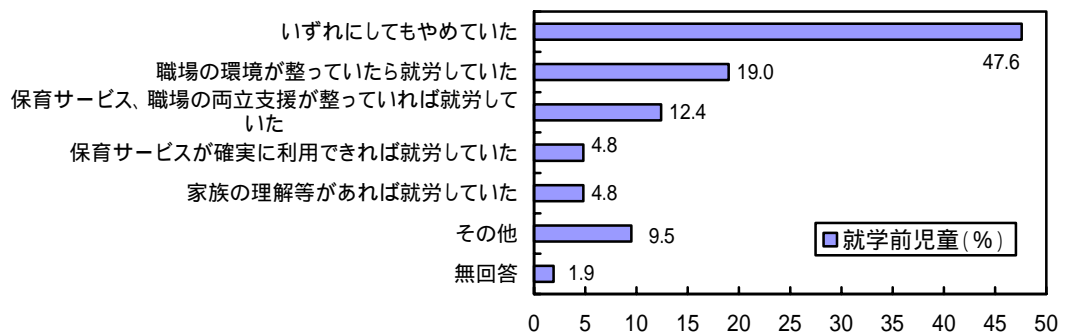
母親の就労希望



就労希望がありながら働けない理由



出産時に離職した母親の就労継続について



【3】仕事と子育ての両立について

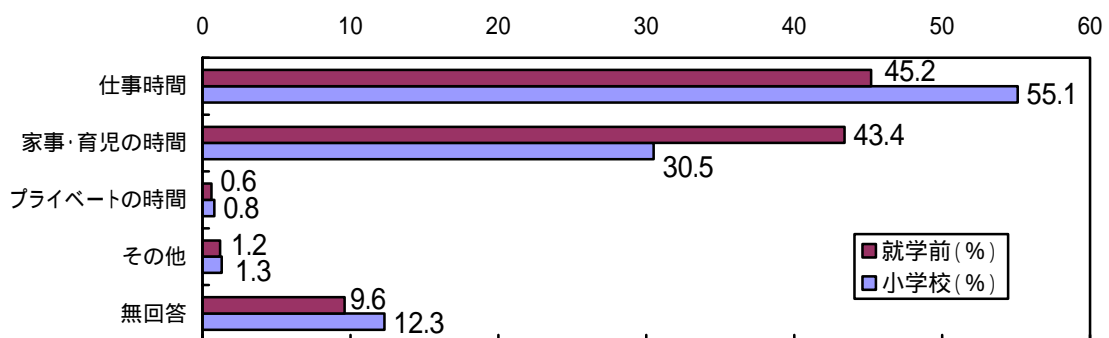
仕事と子育ての両立

仕事と子育てについて、「両立できている」人は、就学前児童で 43.4%、小学校児童で 59.7%となっている。一方、「両立できていない」人は、就学前児童で 22.3%、小学校児童で 19.9%となっている。

また、生活の中で最も優先している時間は「仕事時間」で、就学前児童では 45.2%、小学校児童では 55.1%となっている。

「家事・育児の時間」を優先している人の中で、就学前児童では 87.5%、小学校児童では 80.6%が希望どおりとしているのに対し、「仕事時間」を優先している人の中で、就学前児童では 81.3%、小学校児童では 63.8%が希望どおりでないとしている。

生活の中での優先時間



【4】育児休業制度について（就学前児童）

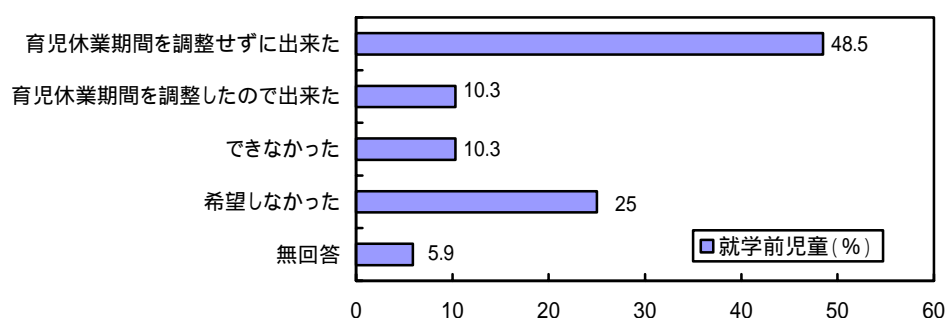
利用の有無

育児休業制度を利用した人は 35.6%、利用しなかった人は 62.3%となっている。育児休業から復帰したときの子どもの月齢は、「12ヶ月」が最も多く 38.2%となっている。

利用のしやすさ

育児休業期間を調整せずに希望する保育サービスを利用できた人は、48.5%となっている。一方できなかった人は、10.3%（希望しなかった人 25.0%）となっている。

育児休業明けの保育サービスの利用状況



【5】保育サービスについて（就学前児童）

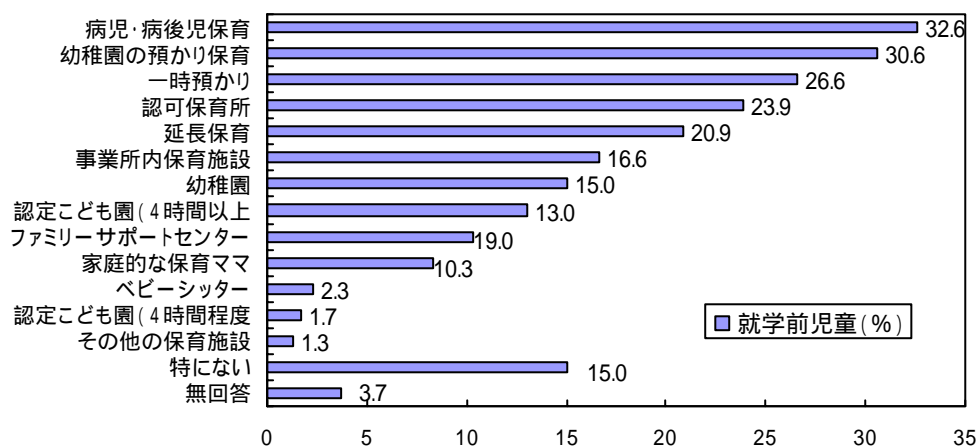
利用状況

定期的に子どもを預ける保育サービスを利用している人は、56.5%となっている。このうち、認可保育所が 70.6%、次いで幼稚園が 27.6%となっており、この二つのサービスで 98.2%を占めている。利用日数は、1週間のうち5日が最も多い。利用時間では、1日のうち8から9時間が最も多い。

また、利用している理由は、65.9%が「現在就労しているため」となっている。

一方、今後利用したい保育サービスは、病児・病後児保育が 32.6%を占め、その理由として 61.2%の人が、「現在就労しているため」「そのうち就労したいと考えている」と答えている。また、利用希望時間は、どのサービスも概ね1週間のうち約5日、1日あたり7時間から10時間を希望している。

今後利用したい保育サービス



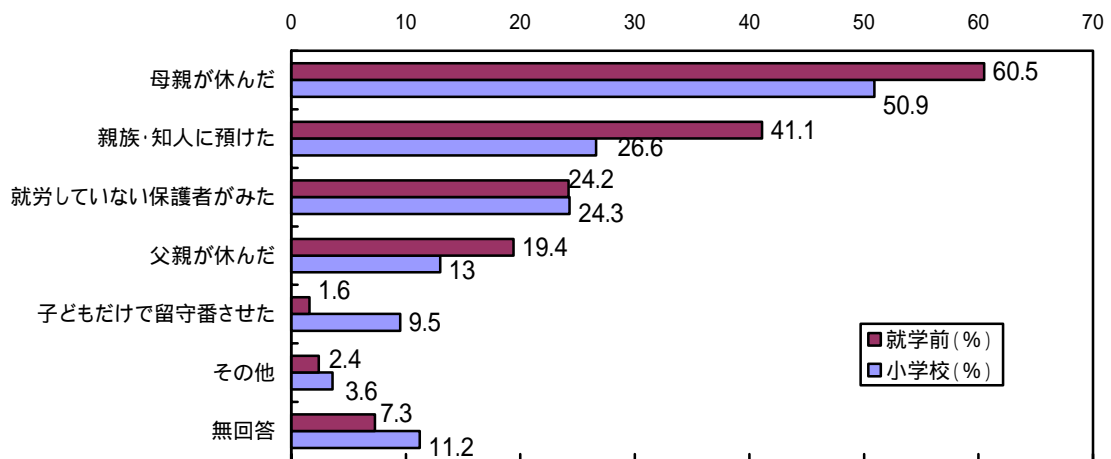
土曜日・日曜日等の保育利用希望

土曜日の保育サービス利用希望は、52.5%となっており、このうち「ほぼ毎週利用したい」が28.9%を占めている。また、日曜日、祝日の利用希望は、26.6%となっている。

病児・病後児保育について

過去1年間に、子どもが病気やけがで通常の保育サービスを利用できなかった人は、就学前児童で71.7%、小学校児童で56.9%となっている。この時の対処方法は、就学前・小学校児童とも母親が休むことで対処している人が最も多くなっている。

病気などでの対処方法



【病児病後児保育】:

児童が病気や病気の回復期にあつて、保育園等での集団生活が困難であり、保護者が勤務等で自宅で育児が出来ない場合において、病院・保育所等の専用スペースで児童を一時的に保育すること。

一時預かりについて

過去1年間で、私用やリフレッシュ目的、冠婚葬祭、病気、就労などで、子どもを家族以外に預けた人は、就学前児童で28.2%、小学校児童で16.8%となっている。このとき、預けた理由は、就学前・小学校児童とも「私用、リフレッシュ」が最も多くなっている。(就学前児童74.1%、小学校児童46.0%)また、預けた日数は、就学前・小学校児童とも5日以内が最も多い。

【一時預かり】:

冠婚葬祭、保護者の通院、育児による心理的・身体的負担等のため、一時的に家庭で子育てすることが困難な場合、主として昼間において、保育所等で児童を一時的に預かり必要な保護を行うこと。

【6】放課後児童クラブの利用について（小学校児童）

利用状況

放課後児童クラブを利用している人は10.4%で、利用日数は、1週間あたり週5日が最も多い。利用している人の理由は、90.3%の人が「現在就労しているため」となっている。また、利用していない人の理由は、「現在就労していないから（28.8%）」が最も多く、次いで「放課後の短時間なら子どもだけで大丈夫（15.5%）」となっている。

利用希望

現在利用していない人のうち利用希望のある人は12.5%で、利用希望日数は、1週間あたり週2日、週5日及び週6日がともに多くなっている。土曜日の利用希望は、42.4%となっている。また、利用したい理由は、「現在就労している（51.5%）」「そのうち就労したい（24.2%）」で75.7%を占めている。

放課後子ども教室の利用希望

放課後子ども教室を利用したい人は39.7%で、利用日数は、「週3日（25.4%）」「週5日（24.6%）」となっている。

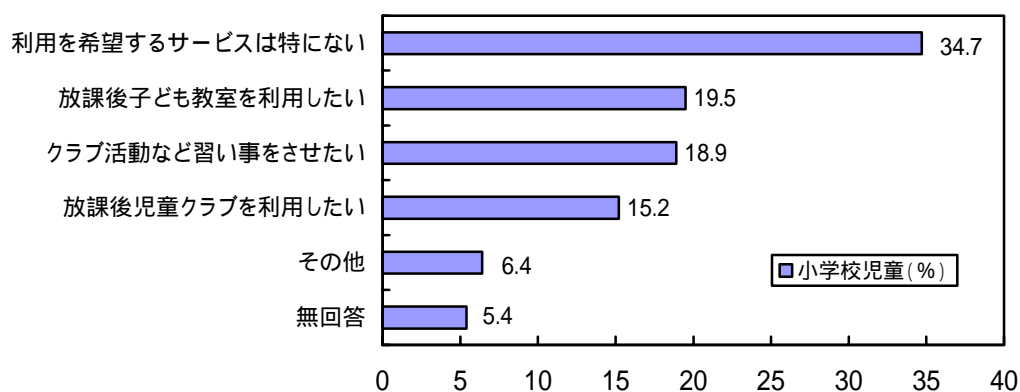
【放課後子ども教室】:

すべての子どもを対象として、安心・安全な子どもの居場所を提供し、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取組をするもの

小学4年生以降の放課後の過ごし方

小学4年生以降の放課後の過ごし方では、放課後児童クラブを利用したい人は、15.2%となっている。

小学4年生以降の放課後の過ごし方（希望）



来年度小学校入学予定者（就学前児童）の放課後児童クラブ利用希望

来年度小学校入学予定者の放課後児童クラブ利用希望は、「利用したい」が46.1%となっている。利用希望者のうち、66.3%が「週5日利用したい」希望がある。

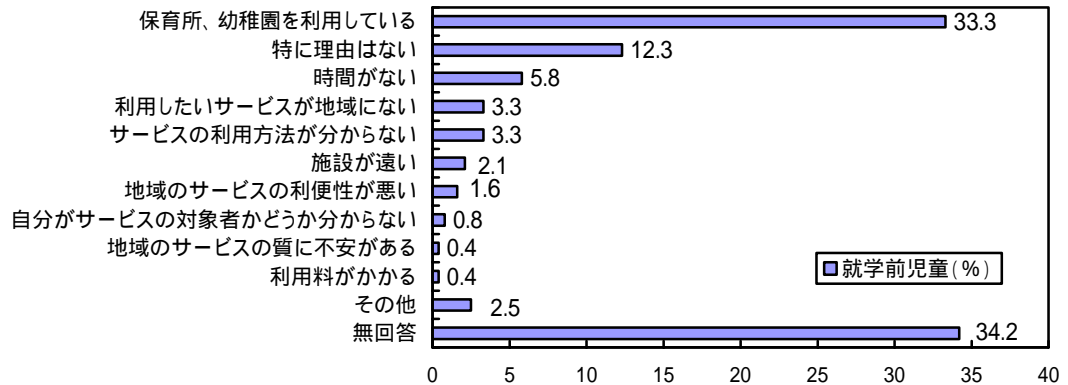
【7】子育てについて

地域子育て支援拠点事業（就学前児童）

保育所や島崎児童館が行っている子育て支援事業「島崎児童館げんきっこ広場」「宮津市子育て支援センター」を利用したことがある人は、16.6%となっている。

一方、利用していない人の理由は、「保育所、幼稚園を利用している（33.3%）」が最も多く、次いで「特に理由はない（12.3%）」となっている。

利用していない理由



【地域子育て支援拠点事業】:

乳児又は幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業。

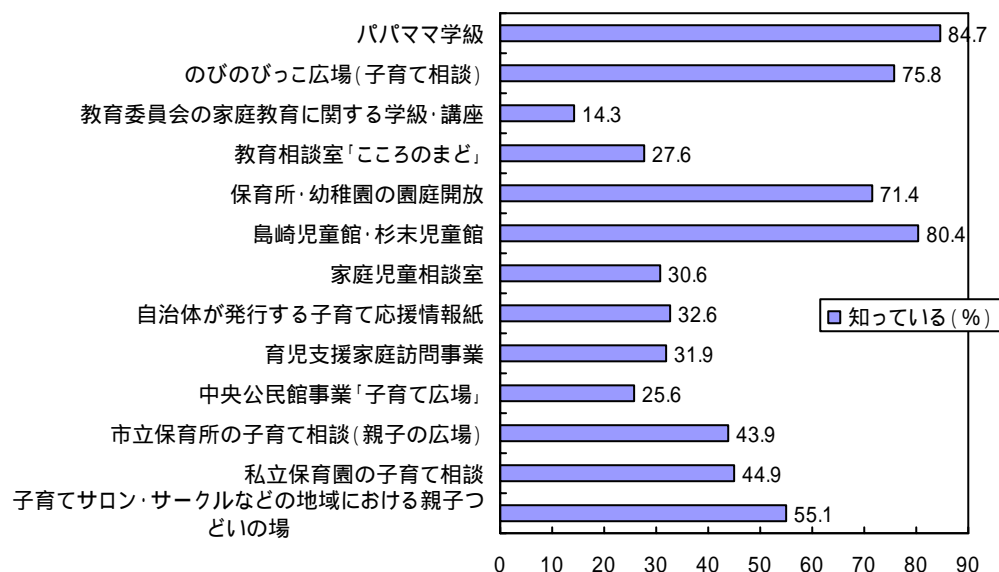
げんきっこ広場（島崎児童館内）と子育て支援センター（亀ヶ丘保育園内）を開設。

子育て支援サービスの認知度・利用状況・利用意向（就学前児童）

[認知度]

「パパママ学級（84.7%）」「島崎児童館・杉末児童館（80.4%）」の認知度が高い。

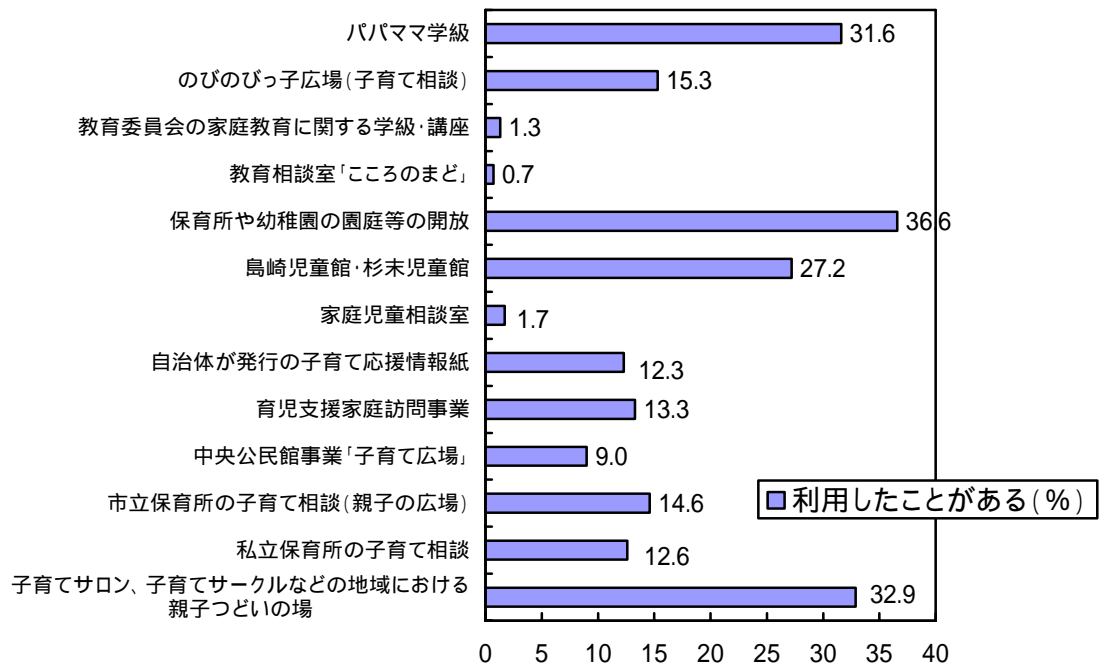
子育て支援サービスの認知度



〔利用状況〕

「保育所や幼稚園の園庭等の開放（36.6%）」が最も多く、次いで「子育てサロン、子育てサークルなどの地域における親子つどいの場（32.9%）」となっている。

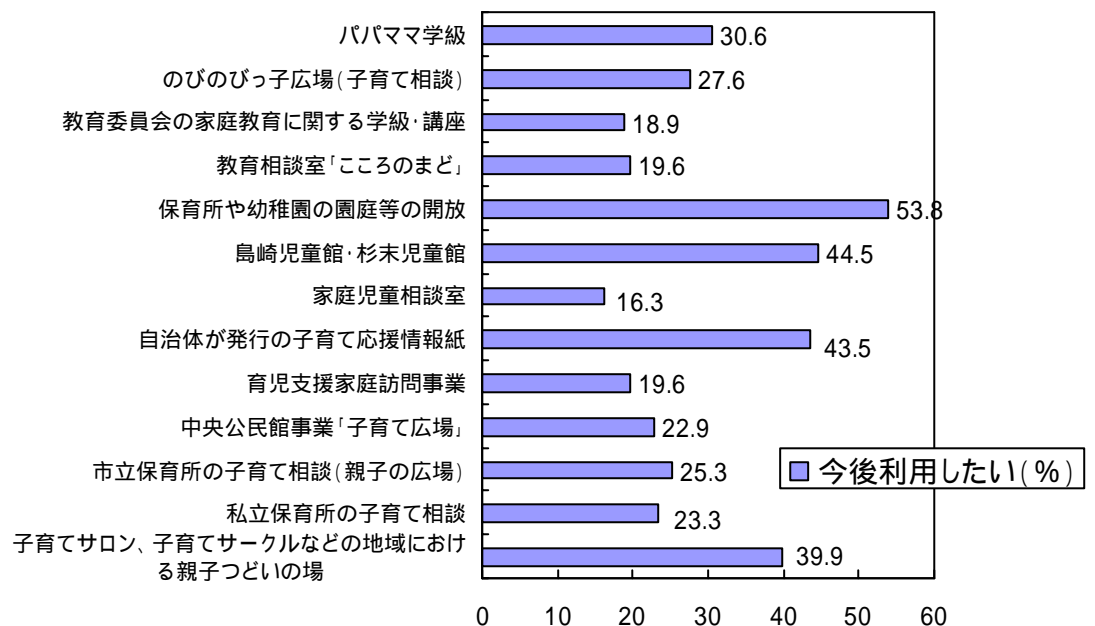
子育て支援サービスの利用状況



〔利用意向〕

「保育所や幼稚園の園庭等の開放（53.8%）」が最も多く、次いで「島崎児童館・杉末児童館（44.5%）」、「自治体が発行の子育て応援情報紙（43.5%）」となっている。

子育て支援サービスの利用意向



子育ての不安感や負担感

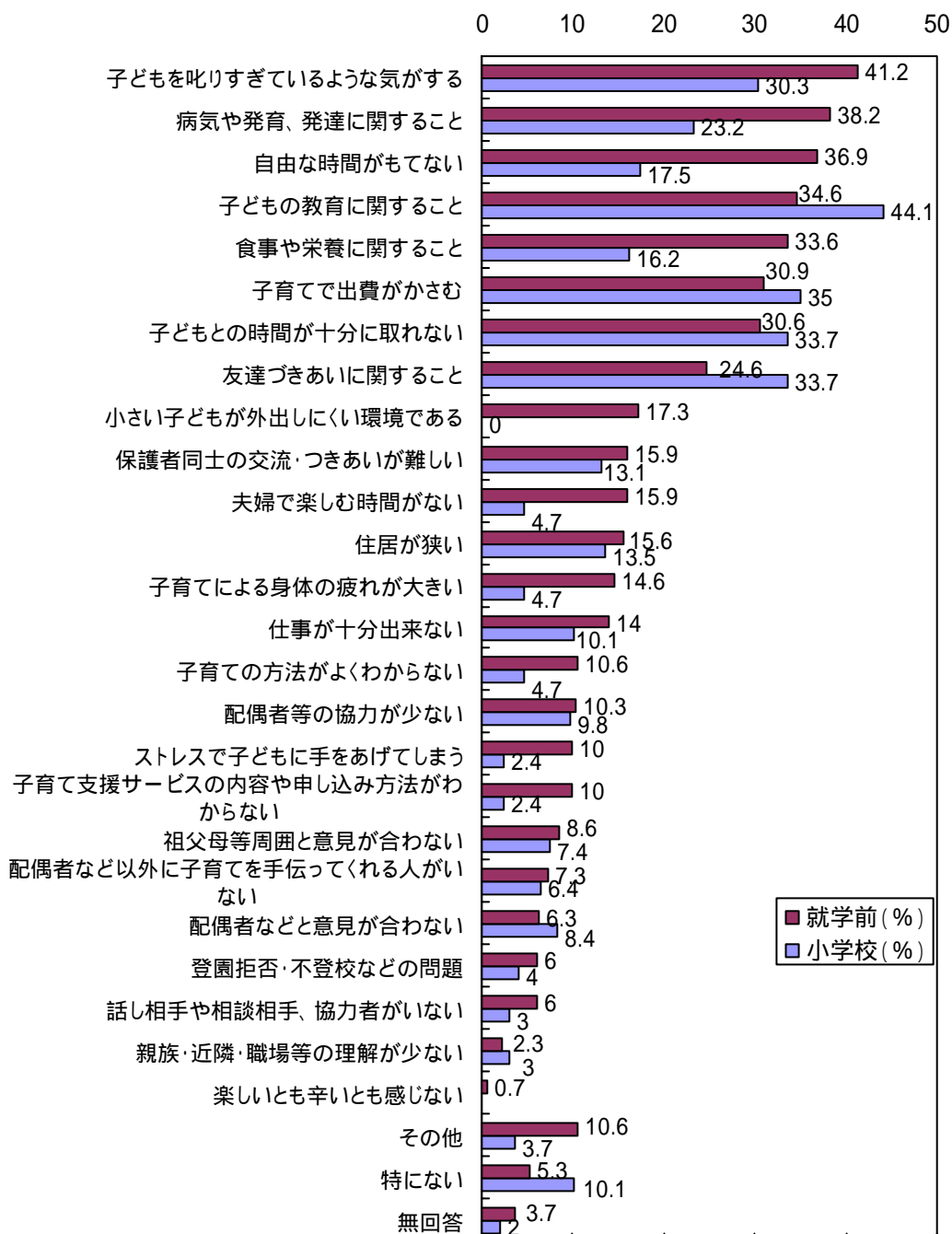
[子育ての楽しさ]

就学前・小学校児童とも「子育てを楽しんでいると感じることが多い」が50%を超えている。一方、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」の人は、就学前児童で31.2%、小学校児童で33.3%となっている。

[悩みごと・不安を感じること]

就学前児童では、「子どもを叱りすぎているような気がする」が41.2%と最も多い。小学校児童では、「子どもの教育に関すること」が44.1%と最も多くなっている。

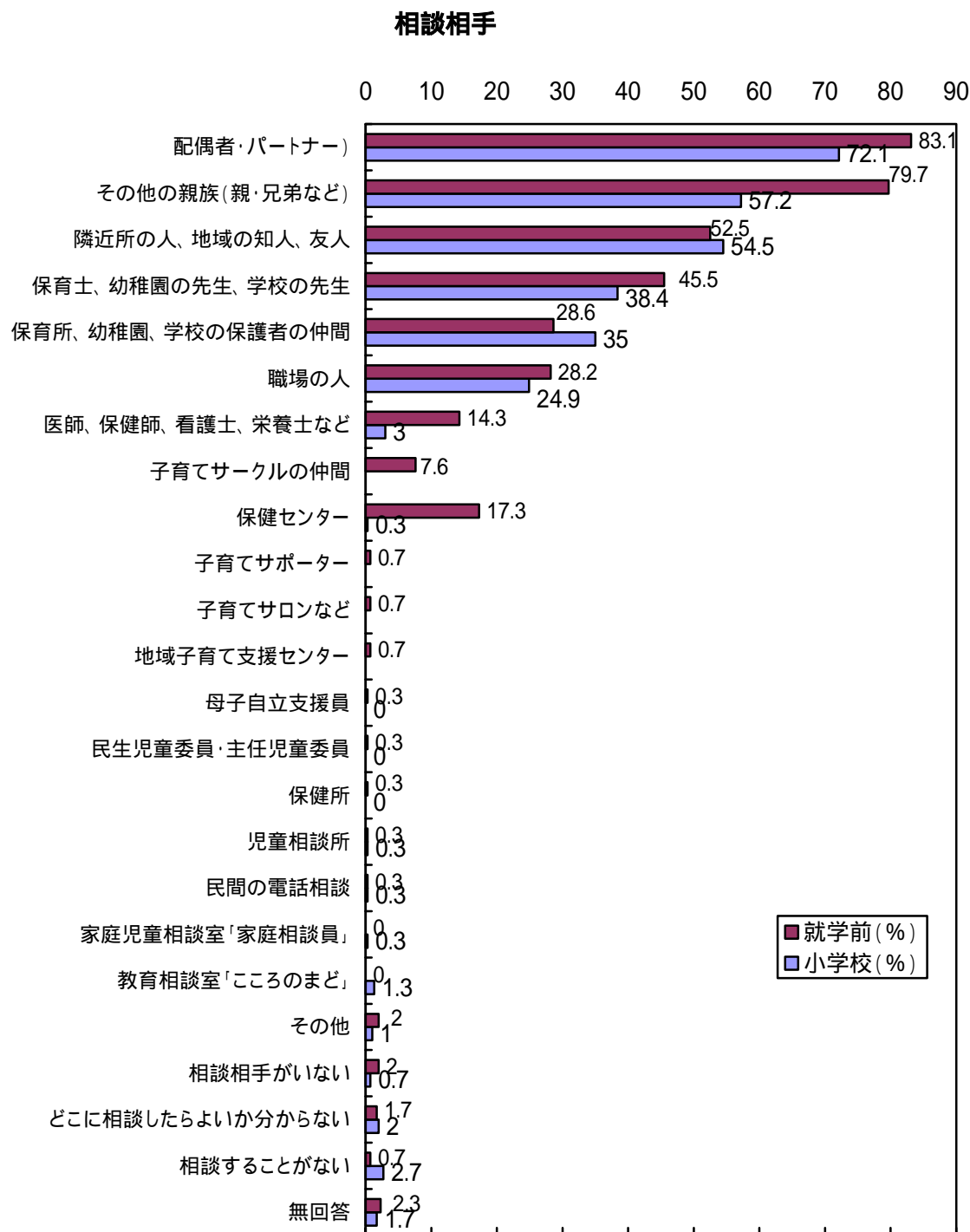
悩みごとなど



子育てについての相談先

就学前・小学校児童とも「配偶者・パートナー」が最も多くなっている(就学前 83.1%、小学校 72.1%)。

一方、相談相手がない人は、就学前児童で 2.0%、小学校児童で 0.7%となっている。



就学前児童に限定される項目については、小学校児童の設問にはありません。

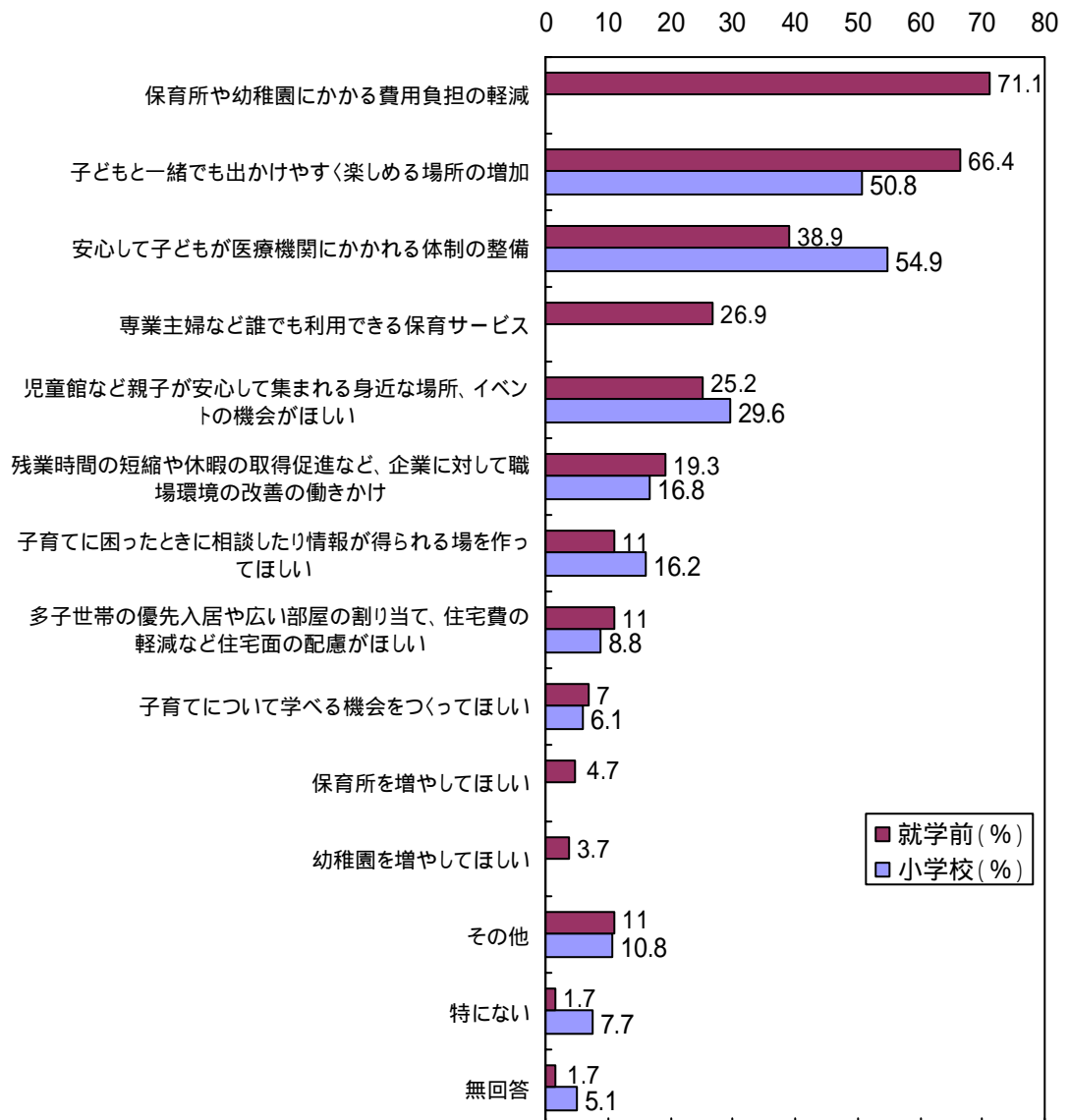
子育てに関する情報入手源

就学前・小学校児童とも「近所の人、地域の知人、友人」が最も多くなっている（就学前 70.4%、小学校 75.1%）。次いで「親族（親、きょうだいなど）」となっている。一方、「情報の入手先がない」「情報の入手手段が分からない」も就学前児童で 2.0%、小学校児童で 1.7%となっている。

【11】宮津市に望む子育て支援充実施策

宮津市に望む子育て支援施策について、就学前児童では「保育所や幼稚園にかかる費用負担の軽減（71.1%）」を求める人が最も多く、小学校児童では「医療機関の体制整備（54.9%）」が最も多くなっている。

市に望む子育て支援施策



就学前児童に限定される項目については、小学校児童の設問にはありません。